

## 第 2 回流山市環境審議会第 2 期環境行動計画策定部会議事概要

1 . 日時 平成 2 1 年 5 月 2 9 日 ( 金 ) 午後 2 時 3 0 分から 5 時 1 1 分まで

2 . 場所 流山市リサイクルプラザ会議室

3 . 出席

( 1 ) 委員

伊藤委員、新保委員、高谷委員、平手委員、松島委員、吉田委員

( 2 ) 事務局

宇仁菅部長、飯泉課長、阿部主査、伊藤主任主事

4 . 資料

資料 1 計画の位置づけ

資料 2 第 1 期流山市環境行動計画振り返りシート

資料 3 第 1 回流山市環境審議会第 2 期環境行動計画策定部会議事概要

5 . 議事概要

( 1 ) 計画の位置づけについて

- ・法律は後追いである。計画は法律の先をいくものでもいい。
- ・環境モデル都市の考え方を反映させる。
- ・この部会ではどこまで検討するのか。
- ・リーディングプランの出所がわからないし、わかりにくい。
- ・リーディングプランは個別施策から出す方がわかりやすい。
- ・行動内容そのものは全て地球温暖化対策に繋がるものであり、環境家計簿を付けるといふ行動に包括できるのではないか。行動を細かくするのは疑問。
- ・環境指標についても場合によっては見直しが必要。
- ・次期行動計画の策定にあたっては基本計画に則った形での整理が必要。
- ・地球温暖化の実行計画と推進計画の名称の違いが良くわからない。
- ・一般廃棄物処理基本計画の見直しとの整合も必要。
- ・市役所から排出される温室効果ガスは市域全体のわずか 5 %、残りの 9 5 % は市民や事業者である。リーディングプランは 9 5 % の方にかかるのではないか。
- ・リーディングプランは身近な行動、実行してみたい行動にしないと意識改革につながらない。
- ・第 1 期のリーディングプランは必要がなかったのではないか。
- ・環境基本計画は環境像、基本目標、環境的施策、個別施策とわかりやすい。
- ・施策例 グリーンカーテン運動(板橋区)、環境家計簿、白熱電球一掃作戦、公共バスの利用など。
- ・計画の市民周知ができていない(自治会員に聞いたら誰も知らない。)。自治会回覧、出前講座など行うべき。

( 2 ) 環境行動計画の評価・総括について

( 3 ) 地球温暖化対策実行計画・地域推進計画の評価・総括について

- ・ C の評価が多いのは環境教育、環境学習の分野である。以前から温暖化の活動をしていて思うのは、環境教育は先生によって温度差がある。
  - ・ 何で C が多かったのかのレビューが必要。
  - ・ 次期計画では重点項目だけでもいいから数値目標が必要。
  - ・ 達成度の A、B、C という評価の仕方だとあいまい。何パーセント表記にした方がわかりやすい。
  - ・ 市の施策の評価は行政評価システムとリンクさせるとやる方も見る方もわかりやすい。
  - ・ 資料編のチェックシートは、市役所アクションプログラムが 13、市民版環境配慮チェックシートが 118、事業者における環境配慮チェックシートが 59 項目とバランスが悪いし、これらチェックシートの扱いと行動内容の整合が図られていない。
  - ・ いろいろパンフレットがあるがそれらがすべてバラバラである。
  - ・ いつまでに何をするか具体的に作る。
  - ・ 環境負荷の大きい行動をチェック項目、行動、リーディングプランとする。
  - ・ 数値目標はチャレンジ的な少しきつい目標がいいのではないか。
  - ・ 数字が見えてくると市民も協力できるのではないか。
  - ・ 目標が達成できた世帯や地域に対して、表彰などの頑張りに対して酬いる制度が必要。
  - ・ 環境家計簿は行動の変化がすぐに数字に現れるのでわかりやすい。モデル地区でサンプリングを行い、それを広めていく。
  - ・ 流山市は温暖化の傾向(物理的・生物的)をどこで把握しているのか。例えば、熱帯夜の日数は指標になるのか。
  - ・ 消防に過去 30 年間の平均気温のデータがある。
  - ・ ここ 2 年半なら市内 60 箇所の 10 分ごとのデータをとってある。
  - ・ 省エネ取り組みはその年の気温の変化とともにとらえないと、涼しかったから省エネできたというようになり、中身が見えてこない。
  - ・ 昨年 40 度のときに市野谷の森の中に入ったが、4 度気温が下がった。効果を実感した。
  - ・ ストップ温暖化というからには気温の指標がないとわからない。
  - ・ 気温の測定結果を市民に知らせるためにおおたかの森駅のボードを利用したり、そこでのイベント開催時に啓発したりなど拠点になるのでは。
  - ・ 流山でも夏にクーラーの要らないところがある。
  - ・ ヒートアイランドと地球温暖化をきちんと整理、理解する必要がある。
- (4) 生物多様性地域戦略について
- ・ 非常に深いテーマである。
  - ・ 対象区域は絞った方がよいのではないか。例えば大堀川。
  - ・ 県や隣接する自治体も含め、予防保全が求められる特定の地域の調査が必要。

- ・国、県、市民、企業などに積極的にアピールして、理解と支援を要請する。その際、流山市も財政的な措置が必要。
- ・10年後、20年後の流山市の姿を描き、市民に理解してもらうためのアクションプログラムを実行する。
- ・県では生物多様性と地球温暖化をセットで推進している。
- ・手賀沼流域フォーラムの活動が生物多様性の活動としてわかりやすいかと思う。
- ・生物多様性という言葉に踊らされないで、今やっている活動から見えてくるものが、即ち生物多様性であるというようにつながらないか。
- ・国の2010年目標は達成できる状況にない。ポスト2010年をまとめている最中である。
- ・生物多様性は保全だけではなく、持続可能な利用についても含んでいるので、対象区域は全域とし、重点区域としていくつか挙げればよい。
- ・自然的なものだけではなく社会的なことも考えなければならない。日本はフードマイルが世界で最高である。地産地消にすることで、CO<sub>2</sub>の削減にもなるし、里山なども生きてくるし、失われつつある地元の田畑が蘇ることで生物多様性が保全される。
- ・例えば教育に関するもの生物多様性の環境学習、ビオトープを広げていく活動などについては全市的な計画を持った上で、大事な部分は重点化していくという両面を考える必要がある。
- ・目標年次は国際的には短期2020年、長期2050年という話しになっている。重点化したものについてはある程度20年に総括できるような目標にする。
- ・保全については流山市の場合は残っているので保全する部分と失われてきたので回復するということの両方が考えられる。
- ・川沿いの緑と野間土手などの緑をネットワーク化させて回廊化したり、各家庭の庭の緑を繋いだり、連続性を確保していくことが重要な施策の1つである。
- ・グリーンチェーンでやっている樹木の登録制度（樹木インベントリ）のようなものをしていけば、のちのちどれくらいあるか把握できる。
- ・木1本1本は点だが、それがつながると線になり、面になる。それによって木がたくさんあるところは気温が低いというような温暖化、ヒートアイランドともリンクできるのではないか。
- ・宅地など単純化した土地利用を多様性というか、モザイク性というものを表現できないか。
- ・流山では、回復(復元)については何が一番いいか。拠点となる、一番なくなってしまったのは谷津田、谷津である。市野谷の森にも昔は谷津があった。谷津を復元できるようなところ。
- ・学校ビオトープは創出になるが、管理者によって外来種が入ってきたり、管理が不十分なところがあったりする。
- ・ビオトープの作り方、家庭のビオトープ作りなどのやり方も考えなければなら

ない。

- ・生物のデータがいつぐらいからあるのか。それらはデータを出せるのか。そしてデータの信頼性などの問題もある。
- ・調査する人を育成しなければならない。
- ・流山の原風景(原点)はいつごろを目安とすればよいか。いろいろな考え方ができる。(江戸川台の造成時期、市制施行、T X 区画整理前)
- ・生物の指標、何を持って多様性があるかといえるのか。(種の保存、希少種、典型種、復元種)
- ・流山でも外来種が多い。単に生き物がいればいいというものではない。
- ・森林統計によると森は減っている。植樹できる空間を探し出し、失った森的環境の再生運動。
- ・冬季間の湿地の確保。
- ・鳥類関係は近隣自治体との連携が必要。
- ・生態系ネットワークの連携
- ・生物多様性基本戦略はあくまで基本的な計画であり、今の基本計画の中にも基本的施策2 - 1に位置づけられている。
- ・イギリスなどは、国は戦略で、地域は行動計画と位置づけている。
- ・流山市の歴史の中で育まれてきた生物多様性が基本計画の中に触れられていない。
- ・基本計画と重複していても矛盾は無いと思う。
- ・基本的施策の2 - 1が目的である。
- ・抽象的な目標があってもいいし、具体的な目標もあってもいい。どっちをメインに置くかを議論しなければならない。
- ・基本計画の基本的施策に位置づけられても、誰も生態系ネットワークなんて考えていない。やっぱり具体性がないと駄目だし、評価の方法が無いと駄目である。
- ・生物多様性が人間生活にとってなぜ大事か。
- ・外来種は止めるのは難しいが意図的に持ってくることを止めましょうとはいえる。
- ・脱温暖化行動と生物多様性保全はどちらが重要か。
- ・千葉県は温暖化と生物多様性を両方同じ人に検討させた。問題はつながっている。つなげて理解していく。
- ・生物多様性は温暖化するしないに関係なく、そもそも大事であるということをお訴えることが大事なのではないか。
- ・最近、流山でもみかん、にがうり、びわなどを作っている。
- ・生物多様性についてはまだ認識されていない。行動計画の前にまず、理解するための環境教育が必要である。
- ・全体の構成案について

- 1 . 生物多様性とは なぜ守る必要があるのか
- 2 . 流山市の生物多様性とはどういう特性を持っているのか

## 第2部 流山市の地域戦略

- 1 . 区域
- 2 . 目標
- 3 . 基本的な施策
  - ・ 環境基本計画と重複しても良い
  - ・ 環境基本計画をもう一度読みこなしたようなもの

## 第3部

- ・ 重点を置く地域をセレクトする
- ・ その地域に対する重点施策

## 第4部 実施するに当たって

- ・ 市民参加
- ・ 再生や回復に際し外来種を広げないように
- ・ 点検しながらやり方を直していく(順応的管理)

## 付録 用語集

- ・ 昔は動植物からの季節感を大事にしていたし、季節が生活に密着していた。最近はわからなくなっている。
  - ・ 流山の風土記とも関連してくるのではないか。
  - ・ 基本計画の望ましい環境像に「歴史の豊かさ」とあるので、歴史の面からも捉えられないか。
  - ・ 流山が自然分野で遅れをとっているのは人文系の学芸員しかいないから。
- (5) 本日のまとめと次回の議題について
- ・ 市民アンケートの結果を提示する。
  - ・ 皆さんの意見をまとめて骨格をつくる。